

庄内地区への中高一貫教育校の設置に係る各自治体への意向調査の結果について

平成 31 年 1 月 高校改革推進室

1 意向調査の概要

(1) 調査の目的

県教育委員会が平成 29 年 10 月に公表した「田川地区の県立高校再編整備計画<第 2 次計画（骨子案）>」の中で示した併設型中高一貫教育校の設置案について、庄内地区全体の意見を聴いた上で進めて欲しいとの要望があることを踏まえ、各自治体（鶴岡市、酒田市、三川町、庄内町、遊佐町）の意向を調査し、今後の検討の参考とする。

(2) 調査期間

平成 30 年 8 月 7 日～12 月 31 日

(3) 調査内容

問 1 庄内地区に中高一貫教育校を設置すべきですか。

- 1 設置すべきである。 2 どちらでもよい。 3 設置すべきでない。
その理由を記載してください。

【問 1 で 1 又は 2 と回答した自治体のみ回答】

問 2 現在の県教育委員会の設置案についてどう思いますか。

- 1 概ね賛成 2 条件付き賛成 3 反対
2 の場合は、条件の内容を記載してください。

【問 1 で 1 又は 2 と回答した自治体のみ回答】

問 3 設置場所も含めて対案はありますか。

- 1 ある 2 ない
1 の場合は、具体的な構想の内容を記載してください。

2 調査結果の概要

	問 1	問 2	問 3
鶴岡市	設置すべき	概ね賛成	ない
酒田市	どちらでもよい (現状では設置すべきでない)	反対	ある 〔・東桜学館の取組みや成果を踏まえて ・鶴岡南高校以外を拠点にしたもの〕
三川町	設置すべき	概ね賛成	ない
庄内町	設置すべき	条件付き賛成	ない
遊佐町	設置すべきでない		

※ 回答の詳細については別紙に掲載。

庄内地区への中高一貫教育校の設置に係る各自治体への意向調査結果

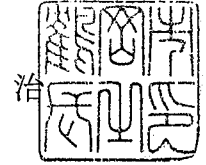
鶴岡市	<p>【問1】1 設置すべきである。</p> <p>理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市では、市内への中高一貫教育校の設置について、山形県に対する重要事業要望として平成26年度以降継続して要望活動を行っている。また、本市独自の取組として、平成27年度から29年度までの3回にわたりシンポジウムを開催し、中高一貫教育についての課題を共有し、理解を深めてきている。平成29年10月に提示された県の骨子案については、賛否が拮抗し必ずしも地域の理解が得られているものではなかったが、その後開催された関係者懇談会における「意見のまとめ」等を踏まえ、6年間の継続的な教育により生徒の個性を伸ばし、優れた才能を引き出すという新たな選択肢となる学校を設置することは、次代を担う人材育成とともに地域の発展につながるものであることへの理解が深められてきており、改めて本市に設置すべきとの判断をしたため。
	<p>【問2】1 概ね賛成 ※回答にあたり付帯意見を添付します。</p>
	<p>【問3】2 ない</p>
酒田市	<p>【問1】2 どちらでもよい。</p> <p>理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な教育を受ける機会を確保するため、中高一貫教育校設置の意義は認めるが、小学校卒業時点で中学校、高等学校までの進路選択を求めるなど庄内地域の教育のあり方を大きく変えることでありその影響は大きい。 設置にあたっては、庄内地域の教育風土、教育環境バランスを欠くことのないよう、場所、時期ともに庄内地域全体の意見を慎重に聞き進めるべきであり、現状では設置すべきでないと考えるが、そういった選択肢がないため「2 どちらでもよい」と回答する。
	<p>【問2】3 反対</p>
	<p>【問3】1 ある</p> <p>対案の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 庄内地域は、西学区という同一学区にあって鶴岡田川地区と酒田飽海地区で同程度の人口規模を持ち、それぞれ特有の文化を育み、特色のあるまちづくりを進めてきた歴史がある。高等学校教育では、いわゆる進学校として鶴岡南高等学校、酒田東高等学校が地域をリードし、それぞれ切磋琢磨し、両校の特色を活かした人材を輩出している。 教育環境におけるこのような庄内地域の事情をご理解いただき、これらの二つの進学校を単独校としてこれまでどおり存続させ、地域風土に寄り添った教育行政を展開していただきたい。本市は、田川地区の高校再編に異をはさむものではないが、中高一貫教育校を設置するのであれば、東桜学館中学校・高等学校の取組みや成果を踏まえたうえで進めること及び鶴岡南高等学校以外の学校を拠点としたものとしていただきたい。その上で、中高一貫教育校の設置だけではなく、庄内地域全体の教育力の向上につながる施策を同時に提案いただきたい。

三 川 町	【問 1】 1 設置すべきである。
	理由 <ul style="list-style-type: none"> 多感な中学・高校時代、6年間という一貫した教育課程のもとで、継続的に個性や能力を最大限に伸ばす教育には大いに期待したい。
	【問 2】 1 概ね賛成
	【問 3】 2 ない
庄 内 町	【問 1】 1 設置すべきである。
	理由 <ul style="list-style-type: none"> 6年間の一貫した計画と継続的な教育活動によりその能力をより伸長することが可能である。 将来の庄内地域を導いていく優れたリーダーの育成が急務であり、幅広い人間関係を築いて切磋琢磨することにより、その可能性を高めることができる。 連携を構築しながらも各市町立中学校に対しての学校経営の面での刺激となり、教育活動の活性化が期待できる。 (懸念として) <ul style="list-style-type: none"> 小学校にあらぬ競争をもたらして現場の混乱を招かないか。 地域の住民（特に保護者）に中学校の序列化がなされるなどの誤解を生むことはないか。
	【問 2】 2 条件付き賛成
	条件の内容 <ul style="list-style-type: none"> 鶴岡酒田だけではなく庄内地域の中学校や住民に対して設置の趣旨や具体的内容を丁寧に説明し理解を深めるための機会を持っていただきたい。
	【問 3】 2 ない
遊 佐 町	【問 1】 3 設置すべきではない。
	理由 <ul style="list-style-type: none"> 田川地区の実情に合わせての考慮とあるが、庄内全体の意見聴取、議論がないまま進められたのではないか。
	【問 2】
	【問 3】

平成30年12月25日

山形県教育委員会教育長 殿

鶴岡市長 皆川



田川地区の県立高校再編整備計画〈第2次計画（骨子案）〉における
庄内中高一貫校（仮称）の設置に係る付帯意見の提出について

中高一貫教育については、高校入学者選抜の影響を受けず、6年間を通じた継続的な教育をすることにより、生徒の能力や個性を伸ばすとともに、幅広い年齢集団の交流により、社会性や豊かな人間性を育てることが期待されています。

山形県においては、併設型の中高一貫教育校を内陸と庄内にモデル校を設置し、実践検証をするという構想を策定し、内陸においては、平成28年4月、東根市に東桜学館が開校され、現在に至っています。一方、庄内においては、具体的な動きがなく経過していた中で、平成26年度から、本市が重要事業要望として本市への中高一貫教育校の設置を県に要望し、独自に「中高一貫教育シンポジウム」を開催するなどして、中高一貫教育についての理解を深めるための取り組みをしてきたという経緯があります。

田川地区の県立高校の再編整備については、平成25年2月にその骨子が公表され、同年3月に「田川地区の県立高校再編整備計画」が策定され、平成36年度を目処とする方向性が示されました。この方向性を具体化するものとして改めて示されたものが昨年10月に公表された「田川地区の県立高校再編整備計画〈第2次計画（骨子案）〉」であり、田川地区の県立高校を統合し、現在ある30学級を平成36年度までに24学級に削減するという具体案でありました。中高一貫教育校に係る計画案としては、鶴岡南高校と鶴岡北高校を統合するとともに、新たに県立中学校を新設することとし、現在の両校の敷地と校舎を活用した考えが提示されました。

しかしながら、この具体案については、市民や関係する団体、また近隣自治体から様々な意見が出される状況となり、本市としては、本市への中高一貫教育校の設置を進める上で、県教育委員会に対し、市民や近隣自治体の理解を深めながら、東桜学館の成果検証や他県における成果等も踏まえ、丁寧に進めるようお願いしてきました。

本市としてもこれまで、県教育委員会が設置した関係者懇談会に参画するとともに、市PTA連合会、また、市の校長会等からの協力による説明や意見交換の機会を設けてまいりました。関係者懇談会の「意見のまとめ」においては、賛同する意見が多く出されたという意見集約がなされたところではありますが、周辺への影響を懸念する意見等があったことも事実であります。

この度の「庄内地区への中高一貫教育校設置に係る意向調査」を回答するにあたっては、本市意向とともに、これまで頂いた多くのご意見をもとにした付帯意見を提出いたします。つきましては、別紙の内容について、特段のご配慮をいただきますようお願いいたします。

田川地区の県立高校再編整備計画〈第2次計画（骨子案）〉における
庄内中高一貫校（仮称）の設置に係る付帯意見

1 鶴岡南高校と鶴岡北高校の統合について

中高一貫教育校の設置については、田川地区の県立高校再編整備とともに検討が進められ、鶴岡南高校と鶴岡北高校の統合による新たな高校の開校とともに設置するという案が県教育委員会から提示されました。今年度開催された「鶴岡市内の県立高校再編整備に係る関係者懇談会」においては、対案も示されましたが、関係者への意見聴取や関係者懇談会での協議においては、県教育委員会の案に賛同する意見が多く出されました。

鶴岡南高校は、130年の歴史をもち、明治21年の創立以来、地域の中心校として国内外に多数の有為な人材を輩出してきました。文武両道の精神は今も受け継がれ、また、スーパーサイエンスハイスクールとしての成果もめざましい伝統校です。

鶴岡北高校は、120年の歴史をもち、東北で2番目の公立高等女学校として創立以来、地域の女子教育を担い、全国や世界を舞台に活躍する人材を輩出してきました。また、その伝統は現在も脈々と受け継がれ、体育や文化活動でも輝かしい活躍をする等地域に愛されてきた伝統校です。

この両校を統合するにあたっては、両校がこれまで果たしてきた実績や地域における役割を踏まえるとともに、両校の伝統が新たな形で継承されていくよう、同窓会等関係する団体の意見にも十分配慮して進めていただきたい。

2 統合とともに新設される併設型中高一貫教育校について

鶴岡南高校と鶴岡北高校の統合とともに新設される併設型中高一貫教育校の開校に向けて今後設置される整備委員会や準備委員会等においては、将来に向けて地域の課題となる若者の地元定着や地域経済の活性化などにもより一層の貢献ができる地域の基幹校となるよう、学校理念策定のための検討を進めていただきたい。その際は、地域の意見を反映させることができるよう配慮いただきたい。

3 既存校舎の活用について

県教育委員会案では、校舎分離型の中高一貫教育校とする計画となっております。開校に向けた既存校舎の整備にあたっては、不足教室の増設や既存教室改修等の限定的な整備にとどまらず、探究的な学習活動に有効なスペースやICT機器の充実等、生徒の多様な学びに対応できる施設・設備の工夫を取り入れるとともに、中高一貫教育校としての特徴が見えるよう措置をしていただきたい。

4 特色ある教育課程の編成について

中高一貫教育校の教育課程を編成するにあたっては、理数教育や外国語教育の充実、加えて本市並びに庄内地域における豊かな自然環境や歴史・伝統、次世代産業や学術機関等の教育資源を有効に活用し、郷土を愛し、地域の将来を担う人材を育成することができるようにしていただきたい。

5 懸念されることへの対応と先進校の検証継続について

中高一貫教育校の新たな設置については、賛同や期待を込めた意見だけでなく、受験競争の低年齢化に対する保護者の不安、県立中学校入学を希望する児童への心のケアが必要になるという小学校からの意見、中学校からは、新入学生徒の減少によって学級数の減少や教員数の減少になることへの不安、教員数確保に配慮をしてほしい等の意見をいただきました。

こうした意見も含め、今後も地域住民への適時、丁寧な説明をしていただくとともに、県立高校再編整備基本計画に定められた基本方針に基づいて、東桜学館の成果検証と他県における併設型中高一貫教育校の成果等の集積を今後も継続して進め、本市で要望している中高一貫校の設置に効果的に反映されるようにしていただきたい。